



編集・発行

大阪府立 呼吸器・アレルギー医療センター
 大阪府羽曳野市はびきの3丁目7-1
 TEL:072-957-2121
 FAX:072-958-3291
 HP: http://www.ra.opho.jp
 E-mail: kokyucen@ra.opho.jp

最新鋭のMRIが稼動いたします

院長 露口 泉夫

この12月から、放射線科でMRI診断装置が稼動いたします。長らく他の医療機関に依頼して、患者の皆様にご迷惑をおかけしておりました。

この装置は例えば脳やお腹の腫瘍、脳梗塞、心筋梗塞、脳神経系の疾患等の画像診断に大いに役立つ装置です。

病気の画像診断技術の発達にはめざましいものがあります。当センターで申しますと、古くからの胸のX線単純撮影、CT検査、心臓・肝臓・胆のう・子宮・乳房など極めて応用範囲の広い超音波（エコー）撮影、アイソトープ画像診断等が従来からありました。

今回、最新鋭のMRI装置が入ったことによって、当センターの画像診断能力が更に充実したものになります。

画像診断に当たって肝要な点は、出来上がった画像から、如何に正しい診断（読影と言います）を下すかという点です。「検査を受けた」だけではダメで、見落としのない正しい診断が重要です。当センターの放射線科では3人の学会認定専門医が読影に当たっております。

あなたの現在の病気がMRI検査の適応になるかどうかは、外来の主治医にご相談下さい。なお、少なくとも半年に一回は胸のX線検査を受けることをお勧めいたします。

メタボリックシンドロームをご存知ですか？

循環器内科部長 荒木 良彦

やや肥満（腹囲85cm以上（男性）、90cm以上（女性））の方で、表1の内2つ以上の項目を満たす方がこのメタボリックシンドロームに該当します。

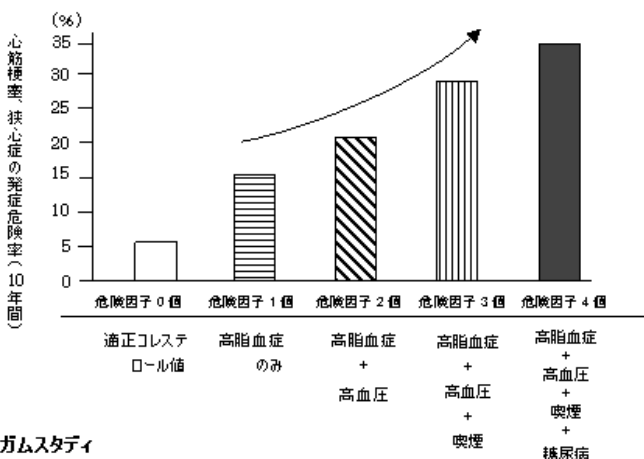
- 表1 ①中性脂肪 150mg/dL 以上 または、
 HDL コレステロール(いわゆる善玉コレステロール) 40mg/dL 未満
 ②空腹時血糖 110mg/dL 以上
 ③収縮期血圧 130mmHg 以上 または、
 拡張期血圧 85mmHg 以上

生活習慣病といわれる高血圧・糖尿病・高脂血症と肥満とは一人の方に同時に存在しやすく、この一連の複合状態がメタボリックシンドロームで

す。1つ1つは軽度でも複合すると動脈硬化が進行し狭心症や心筋梗塞に陥る危険が高くなります。表2は高脂血症の方に高血圧や喫煙や糖尿病が加わると心筋梗塞や狭心症の発症危険度が高くなることを示していますが、肥満があると危険度が更に上昇すると考えられます。

食事療法、運動療法、禁煙に努力した上で適正な薬物治療を行い重篤化しない様に予防することが大切です。

表2 「心筋梗塞、狭心症の発症危険率(男性 55歳の場合)」





12月・1月の教室案内

- ・糖尿病教室 ●12月 1日(木) 2日(金) ●1月12日(水)13日(木) 午後1時半～
- ・カンガルー教室 ●12月 7日(水)21日(水) ●1月11日(水)25日(水) 午後1時半～
- ・喘息教室・理学療法(小児科) ●12月15日(木) ●1月19日(木) 午後2時～

《放射線科の紹介シリーズ》(2)



今回はMRIの特徴について説明させていただきます。

1. MRIの特徴

苦痛がほとんどない安全な検査です。また、骨や空気による画像への影響がなく、目的の部位に応じ優れた画像が得られます。特に縦、横、斜め方向の断面が得られるので場所、範囲、大きさなどがわかりやすく、立体的に見える3次元の画像も得意です。また、血管が太く呼吸などで動かない場所であれば造影剤は最小の量、もしくは使用しなくても血管に関する情報を得ることができます。

2. MRIとCTの違い

いずれも体の断面画像を撮影する装置ですが、大きく違う点にはCTは“X線を用いる”に対しMRIは大きな磁石による“強い磁場”とFMラジオで使われる“電波”を使い画像を得ます。そのためMRIはX線を用いないので小児、成人に関わらず放射線被曝の心配がありません。ただし、強い磁場を使っていますのでCTにはないMRI特有の制限や注意事項があります。

3. 撮影時間は40分程度かかります。

一般的にMRIの撮影はCTに比べ長いと言われていています。当センターの装置は最新ですので40分程度で撮影できます。数年前の装置では1時間以上撮影にかかっていましたので大きく短縮されています。また、撮影部位や目的により撮影の種類を増やす場合があります、検査時間が延長されます。この場合も高性能な装置による時間短縮の効果が反映されますので総検査時間は短縮されます。しかし40分前後の検査時間は長く感じますので時間はかかるとご理解いただき、リラックスして検査を受けて下さい。

4. 装置から音がします。

MRIでは画像を得るために磁場を微妙に変化させる必要があります。この際、装置から“カンカン”“ゴンゴン”と音が発生しますが機械の異常ではありません。当センターでは騒音の対策も行っていますので安心して検査を受けていただけます。



◇当センターの理念◇“私たちは最新の医療水準で、最適な医療サービスを、思いやりの心をこめて提供します。”